

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
中国デザイン専門学校		1977/3/18		長船 圭二		〒 700-0842 (住所) 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人第一平田学園		1977/3/18		平田 真一		〒 700-0842 (住所) 岡山県岡山市北区船頭町12番地 (電話) 086-225-0791				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
服飾・家政	服飾専門課程		ショップロデュース科		令和 3(2021)年度		-		-	
学科の目的		アパレル業界全体および流通に関する専門的学術を教授し、その技術を修得させると共に、教養を高め、広く社会に貢献できる人物の育成を目的とし、あわせて地方文化の向上に寄与しようとするものである。また、ファッション分野の職業に就く為に必要な実践的かつ専門的な能力を、産学協同 の実習やインターンシップを通して身につけることを目的とする。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		2年制で卒業後にアパレルショップで活躍できる人材を育成するため、校内だけでなく学外での現地実習を1年次から授業に取り入れて実践力を養成している。取得可能資格はファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定、メイクアップ技術検定、色彩士検定、ビジネス能力検定。 令和5年度中退率50%								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			単位時間 83 単位	単位時間 17 単位	単位時間 74 単位	単位時間 11 単位	単位時間 単位	単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
20 人	6 人		0 人		0 %		25 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		:		0 人					
	■就職希望者数(D)		:		0 人					
	■就職者数(E)		:		0 人					
	■地元就職者数(F)		:		0 人					
	■就職率(E/D)		:		0 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:		0 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:		0 %					
	■進学者数		:		0 人					
	■その他		:							
	(令和5年度)卒業生なし ※卒業年次生が中退したため(令和4年度)卒業!									
(令和 4 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等										
(令和4年度卒業生)										
アパレル企業の企画職、アパレルショップでの販売職										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載					無				
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://www.cdc-de.ac.jp/department/fashioncreative/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数					0 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数					単位時間					
うち必修授業時数					単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)									
	総単位数					83 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					1 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数					単位					
うち必修単位数					75 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					1 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人				
	計					3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業実践専門課程の基本方針である、「高等学校における教育の基礎の上に、深く専門的な程度において専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設しなければならない。」を基に教育課程を編成する。

授業内容は、企業等の要請を十分に活かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を学生一人一人が身につけるため、学内での演習実習に加え、アパレル関連企業等と多く関わる内容とする。主な就職先であるアパレル業界における人材の専門性に関する動向や、地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを把握し教育内容へ落とし込むため、教育編成委員や実習先企業等へのヒアリングやアンケート等を定期的に実施し教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は校長の下に組織され、委員会を経て当校のカリキュラム編成及び授業内容に対する意見を検討する。

委員会で出た意見はカリキュラム会議にて審議され、校長の許可を経て審議された内容を授業カリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岡野 英美	特定非営利活動法人 ENNOVA OKAYAMA	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
守屋 謙太郎	株式会社ケイズ・ユニット 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤森 英樹	Pattern Studio SYNERGY 代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
丹羽 雅人	株式会社丹羽建築設計事務所 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤原 敏嗣	famo.DESIGN STUDIO 代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
森 大起	VICICA 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
滝澤 宏行	ビジネスセンター岡山株式会社 事業本部副本部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
長船 圭二	中国デザイン専門学校 校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮本 真由美	中国デザイン専門学校 服飾専門課程 科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮脇 成也	中国デザイン専門学校 ビジュアルデザイン科 ITデジタルクリエイター科 科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
秋岡 昌彦	中国デザイン専門学校 インテリア・プロダクト科 科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
花田 洋通	中国デザイン専門学校 教務課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
平田 真代	中国デザイン専門学校 事務長	令和4年4月1日～令和6年3月31日、(2年) 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、1月)

(開催日時(実績))

第2回 令和7年2月21日 13:30～15:00

第1回 令和7年6月5日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

技術のデジタル化が進み、アパレル分野でもAIを使ったコーディネートやフィッティングが商業的に行われている。学校現場でも積極的にデジタル技術の習得を図ることが必要。

(活用) 社会で利用されているデジタル技術の学習を授業に取り入れることは早急な実施が求められるため、ソフトウェアなど専用設備を導入し、カリキュラム改定を行うこととした。外部講師や企業の意見・情報を収集した上、導入する新設備を選定し、翌年度以降の授業へ展開することとした。またこれまで実施していた科目については、デジタル技術関連授業が増える代わりに減らす必要もあり、実施しない内容は企業からの意見も取り入れながら同時に精査を行いカリキュラム改定を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と本校の連携によるインターンシップや、本校独自の企業等より業務委託を受け授業内で取り組む制度「DEATCH（デッチ）」を通じ、学生にデザイン・ファッション分野企業の現場及び業務を経験させ、学内授業では得ることが困難な実践的で幅広い見識と実社会への適応性を身につけさせることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・ライフデザイン①②の授業内で実際の商業施設に出向きながらアパレル分野で活躍する企業連携講師の元、ショップ経営について必要となる実務を実習形式で学習する。学修成果は企業連携講師より校外での実習取り組み内容の報告を受け、授業全体の出席数および取り組み状況により授業担当教員が成績評価を行う。

・職業実習連携企業でのインターンシップを一定期間実施し、実際の現場を知ることによって職業に必要とされる技術を身に付ける。インターンシップ実施内容は企業担当者により評価され、この評価を受け学内の科目担当教員が全体的な取り組み状況を含め総合的に成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ライフデザイン①	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	チームワークの実施によりコミュニケーション能力を高める。学外実習では企業等と連携し、店舗企画や準備、宣伝、運営までの一環の流れを学ぶ。	セレンディップ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 関連分野における先進的な知識・技能等を修得するために「教職員研修規定」を定め、教職員の研修等に組織的・継続的に取り組む。研修は専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修と、授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修を主な内容とする。 年度始めに教職員全員が研修年間計画を作成提出する他、必要により所属長の命令によって研修を指示する場合も研修費用は学校が一部補助し全体のレベルアップに努める。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 2025年SS展示会視察 期間： 2024年9月4日 内容 各デザイナー陣による最新ファッションの知識を得ることでファッション販売に関する指導力の向上を図る研修。	連携企業等： 株式会社アンジェロ・ジャパン 対象： 教員
研修名： Maya 初級トレーニング 期間： 2024年9月27日 内容 専門ソフトを使用し各種エフェクト・シミュレーション機能のセットアップ方法、レンダリングのための設定方法を習得する研修。	連携企業等： Tootトレーニングセンター 対象： 教員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 専修学校新任教員研修 期間： 2024年8月1日～8月3日、8月5日～7日 内容 新採用教員を対象に、専修学校教員にとって必要な基礎的知識の習得を目的に、教職科目を中心とした講義・演習を行う研修。	連携企業等： 岡山県専修学校各種学校振興会 対象： 新採用教員
研修名： 教職員のキャリアデザインワークショップ 期間： 2024年7月21日～8月12日 内容 自らのキャリアパスを考え組織の中での一員としての将来設計を行うことで学校と教職員の成長を図る研修。	連携企業等： 職業教育・キャリア教育財団 対象： 教職員

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Adobe Illustrator 導入者向けトレーニング	連携企業等:	ボーンデジタル
期間:	2025年6月26日	対象:	教員
内容	Adobe Illustratorを使用した導入者向けトレーニングにより操作方法を身に付けることで、担当科目の指導力を強化する研修。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	2025年7月、8月	対象:	教職員
内容	アクティブ・ラーニングを指導に取り入れる効果的手法を身に付ける研修		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

各専攻分野企業等から委員が参画した学校関係者評価委員を設置する。特に企業等との密接な連携による取り組みを重要と考え、学校評価を通じた組織的・継続的な教育活等の改善を基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色はなにか 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-5 事業計画は定められているか 2-5 事業計画は定められているか 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8 意思決定システムは確立されているか 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、達成することが可能なレベルとして、明確に定められているか 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか 3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-17 資格取得の指導体制はあるか 3-18 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか
(4)学修成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-20 資格取得に関する目標を達成したか 4-21 退学率の低減に関する目標を達成したか 4-22 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか
(5)学生支援	5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか 5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-29 保護者と適切に連携しているか
(6)教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-33 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-34 学生募集活動は適正に行われているか 7-35 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか 7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-37 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40 財務について会計監査が適正に行われているか 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

(9)法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-45 自己点検・自己評価結果の公開はしているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-46 教育資源を活かした社会貢献 10-47 ボランティア活動の支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者者の評価結果や改善方策等の内、特に企業等から参画した委員の意見については、学科の「カリキュラムや授業等の作成・見直し等」「産学官連携によるインターンシップ、実習等」「教職員の研修等」の教育活動やその他「教育理念・目的・育成人材像」「学生支援」等、学校運営の改善等に活かせるよう意見を検討し、改善に取り組んでいる。
学生数を増やすため、デザインに関する関心が高まっている今、地域おこしブランディングと学校プログラムが関わる取り組みが役立つのではないかと外部委員より意見があり、例年県や市など公的機関が主催するイベントと関わっているため、実施取組についてSNS等を利用し外部へ発信するなど宣伝力強化を行うこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
守屋 謙太郎	株式会社ケイズ・ユニット 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
藤森 英樹	Pattern Studio SYNERGY 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
丹羽 雅人	株式会社丹羽建築設計事務所 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
藤原 敏嗣	famo.DESIGN STUDIO 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
近藤 和	中国デザイン専門学校 教育助成会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	PTA
藤若 典弘	有限会社ヴィジョンイメージファクトリー 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

公表時期: 2025年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の学生がどのようなカリキュラムを通じて知識・技術・技能を修得しているのか、また、質の高い教育プログラムを提供するために、学校としてどのような工夫・改善に取り組んでいるか等を具体的な教育情報を分かりやすく公表し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。さらに、本校の基本的な教育組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、本校教育の質の確保・向上を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	●入学者に関する受入れ方針及び入学人数、収容定員、在学学生数 ●カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時間数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画) ●進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●資格取得、検定試験合格等の実績 ●卒業人数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	●教職員数(職名別) ●教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●キャリア教育への取組状況 ●実習・実技等の取組状況 ●就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	●学校行事への取組状況 ●課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	●学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	●学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ●活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	●貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	●自己評価・学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.cdc-de.ac.jp/info/release/>

公表時期: 2025年6月30日

授業科目等の概要

(服飾専門課程 ショッププロデュース科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			体育実習	各種スポーツ球技を行い、身体能力を高める。実習を通して他学科との交流を深める。	1 通 年	34	1			○		○		○	
2	○			情報デザイン 検定	社会で働きはじめる人に必要とされる、情報を「受け取り・伝える」能力を総合的に評価する試験である「情報デザイン試験」に合格できる力を身に付ける。	1 前 期	17	1	○			○			○	
3			○	夏期集中講座	専門分野に特化した特別講座を短期間で実施。履修により豊かな感性を身に着ける。	1 前 期	17	1	△	○		○			○	
4			○	冬期集中講座	専門分野に特化した特別講座を短期間で実施。履修により豊かな感性を身に着ける。	1 後 期	17	1	△	○		○			○	
5	○			ファッション 販売検定Ⅰ	ファッション販売能力検定3級取得およびファッション商品知識、販売知識などの基礎用語を覚えるための講座。	1 前 期	34	2	○			○		○		
6	○			ファッション 販売検定Ⅱ	ファッション販売能力検定4級取得およびファッション商品知識、販売知識などの基礎用語を覚えるための講座。	1 後 期	17	1	○			○		○		
7	○			ファッション ビジネス検定Ⅰ	ファッションビジネス検定3級取得およびアパレル業界の仕組み（川上～川中～川下の産業形態）と基礎用語を覚えるための講座。	1 前 期	34	2	○			○		○		
8	○			ファッション ビジネス検定Ⅱ	ファッションビジネス検定4級取得およびアパレル業界の仕組み（川上～川中～川下の産業形態）と基礎用語を覚えるための講座。	1 後 期	17	1	○			○		○		
9	○			Webデザイン 基礎	Webサイトをデザインする際の知識・技術を習得することを目的とする。	1 後 期	51	3		○		○			○	
10	○			Webデザイン 入門	Webデザイン、Webサイトを制作する際に必要な知識・操作を学ぶ。	1 前 期	51	3		○		○			○	
11	○			PC技術Ⅰ	Illustrator・Photoshopの操作の基本を学び、デザイン制作の知識や操作方法を学ぶ。	1 前 期	34	2		○		○			○	
12	○			PC技術Ⅱ	PCソフトを使用して成果物を作成する技法を学ぶ。進級制作におけるプレゼンテーションボードを完成させる。	1 後 期	34	2		○		○			○	
13	○			ファッション プランニングⅠa	販売能力やショップMDを目指す力、webショップなどを運営していく知識を身につける。	1 前 期	34	2		○		○		○		

14	○		マテリアル	ファッションの元となる布地についての知識を養う。様々な素材がある中で、それぞれの素材の特性を知りデザインや用途に合った素材選びができるよう知識を身につける。	1前期	17	1		○		○		○						
15	○		アパレル縫製Ⅰ	ファッション販売業務やブランド企画に関わる基礎縫製を学習し、ミシン、縫製技術を身につける。	1後期	17	1		○		○		○						
16		○	ヘア・メイク・ネイルⅠ	流行をキャッチしトータルコーディネートできる目を養い、イメージしたものが表現できるようになるためにヘア・メイク・ネイルの基礎知識を学習。	1前期	51	3		○		○							○	
17		○	ヘア・メイク・ネイルⅡ	イメージしたものを表現するために、ファッションの歴史、時代背景を振り返り、ヘア・メイクの基礎技術を習得する。	1後期	51	3		○		○							○	
18		○	美容検定Ⅰ	イメージした作品に仕上げるために必要なメイクアップ、ネイルの基礎知識、技術を習得する。	1前期	34	2		○		○							○	
19	○		ファッション色彩能力検定Ⅰ	ファッション色彩能力検定3級取得および商品企画、商品デザインにて色彩に関わる知識を身につける。	1後期	17	1	○			○			○					
20	○		VMDコーディネート演習Ⅰ	VMD計画能力の開発およびショッップの開発能力を身に付け、進級制作等と連動したオリジナルショッップの基礎を作る。	1後期	34	2		○		○		○	○	○				
21	○		インターネット販売Ⅰ	ショッップ販売と合わせたインターネット販売サイト運営知識を身につけ、専用アプリケーションを利用し、実践的に販売サイトを運営する。	1後期	34	2		○		○			○					
22	○		スペースデザイン入門	建築物の図面トレースし、図面からリビング・ダイニング・キッチンを中心に改築デザインを提案する方法を学習する。	1後期	34	2		○		○							○	
23	○		素材加工③	インテリア模型を制作し、インテリア・プロダクトデザインにおけるスケールをもったモデル制作技術を習得する。	1前期	51	3		○		○							○	
24	○		デジタルデザインⅡ	Illustrator・Photoshopの操作の基本を学び、印刷物を作るための知識や操作方法を習得する。	1後期	34	2		○		○							○	
25		○	eスポーツ基礎	eスポーツを通じて、課題発見能力 課題解決能力、チームマネジメントスキルを向上させる。	1後期	34	2		○		○							○	
26		○	eスポーツ入門	eスポーツを体験的に学び、さらにeスポーツにおけるロジカルシンキングや、チームマネージメントにふれる。	1前期	34	2		○		○							○	
27	○		ライフデザイン①	校内外での活動等を通して協調生や実践力を養い、自分と考える他者と共同活動を成功させるための技術・能力を習得する。	1前期	119	1				○		○	○	○	○			○
28	○		ライフデザイン②	学校全体、学科ごとの行事準備をチームで取り組む。就職活動の準備を実施する。	1後期	34	1				○		○			○			
29	○		進級制作	進級制作ファッションショーに合わせたブランド企画展示、もしくはステージでのアパレルブランドショーを実習形式で学ぶ。	1後期	136	3				○		○			○			

30			○	海外デザイン研究	海外研修に向け現地事情や文化を学びながら、研修中の行動計画を立てる。	2前期	17	1	○			○			○	
31	○			ビジネスマナー／インターンシップ	企業実習に向けて社会の仕組み、ルール、コミュニケーション方法等必要なマナーについてを学び、アパレル業界の企業形態、実務、職種別技術を学ぶ。	2前期	17	1	○			○		○		
32			○	夏期集中講座	専門分野に特化した特別講座を短期間で実施。履修により豊かな感性を身に着ける。	2前期	17	1	△	○		○			○	
33			○	冬期集中講座	専門分野に特化した特別講座を短期間で実施。履修により豊かな感性を身に着ける。	2後期	17	1	△	○		○			○	
34	○			職業実習	学習する分野に直結した企業等でのインターンシップを実施。就職後に即戦力となる対応力・実践力を身につける。	2通年	65	1				○	○	○	○	
35	○			ファッション販売検定Ⅲ	ファッション販売能力検定2級取得およびファッション商品知識、販売知識などの基礎用語を学習する。	2前期	34	2	○			○		○		
36	○			ファッション販売検定Ⅳ	ファッション販売能力検定の受験対策を通じてファッション商品販売の仕事に携わる場合に必要な基本的な知識を身につける。	2後期	17	1	○			○		○		
37	○			ファッションビジネス検定Ⅲ	ファッションビジネス検定3級取得およびアパレル業界の仕組みと基礎用語を学習する。	2前期	34	2	○			○		○		
38	○			ファッションビジネス検定Ⅳ	ファッションビジネス業界で必要な専門知識・技術、基礎レベルの商品開発を学び、ファッションビジネス能力検定2級ビジネス科目で60%以上の正答率を目指す。	2後期	17	1	○			○		○		
39	○			ファッションプランニングⅡa	販売能力やショップMDを目指す力、webショップなどを運営していく知識を身につける。	2前期	34	2		○		○		○		
40	○			PC技術Ⅲ	Illustrator・Photoshopの操作の基本技術を使い、デザイン制作を行う方法を学ぶ。	2前期	34	2		○		○			○	
41	○			PC技術Ⅳ	Illustrator・Photoshopの操作の基本技術を使い、応用的なデザイン制作を行う方法を学ぶ。	2後期	34	2		○		○			○	
42	○			Webデザイン応用	レスポンスWebサイトの基本的な制作の流れを把握した上で基本的なサイト構築を行う。	2前期	51	3		○		○			○	
43	○			Webデザイン実践	レスポンスWebサイトの制作を通じて、ユーザー中心設計に基づいたWebサイトの作成方法・デザインを学習する。	2後期	51	3		○		○			○	
44	○			インターネット販売Ⅱ	インターネット販売サイトの企画書制作から仕入れ又は商品開発を学ぶ。企画書に基づき専用アプリケーションを使ったWEBサイトを開設、実践的に販売サイトを運営する。	2後期	34	2		○		○		○		
45			○	ヘア・メイク・ネイルⅢ	メイクアップの技術を身につける。アップ用ウィッグを使用して編み込みを習得する。ネイルアート作品を製作する。	2前期	51	3		○		○			○	

46			○	ヘア・メイク・ネイルⅣ	ファッションショーに向け自由な発想でイメージしたデザインを仕上げ、写真撮影を行う。グループでイメージを立案する。	2 後期	51	3		○		○		○	
47			○	美容検定Ⅱ	爪の構造、ネイルケア、皮膚の仕組み、顔の分析、標準のプロポーション、色彩などの基礎知識を学び、技術を習得する。	2 前期	34	2		○		○		○	
48	○			アパレル縫製Ⅱ	工業用ミシン、アイロンなどの縫製に必要な機器を使用し、店舗での裾上げやリメイク商品などのオリジナル商品企画開発技術を高める。	2 後期	17	1		○		○		○	
49	○			素材加工応用	インテリア模型制作を通してイメージした空間を短期間で組立てる方法を学ぶ。	2 前期	51	3		○		○		○	
50	○			ファッション色彩能力検定Ⅱ	ファッション色彩能力検定2級取得および商品企画、商品デザインにて色彩に関わる知識を身につける。	2 後期	17	1	○			○		○	
51	○			VMDコーディネート演習Ⅱ	VMDの応用企画、コーディネート企画を実施し卒業制作と連動した店舗づくりを行う。	2 後期	34	2		○		○	○	○	
52	○			デジタルデザインⅣ	Illustrator・Photoshopの操作の基本から応用を学び、印刷物を制作する。	2 後期	34	2		○		○		○	
53			○	動画クリエイションⅢ	自己紹介、他者紹介動画など様々な内容の動画を作成する。また、諸般多様な動画作成の機材に触れる。	2 後期	51	3		○		○		○	
54			○	eスポーツ応用	参加するゲームを分析し、さらにその分析結果をもってチームでの話し合いミーティングまでを行う。	2 前期	34	2		○		○		○	
55			○	eスポーツ実践	参加するゲームを分析し、さらにその分析結果をもってチームでの話し合いミーティングまでを行う。	2 後期	34	2		○		○		○	
56	○			ライフデザイン③	ブランドショー企画からプレゼンテーション実演までを計画する。ファッションショーを通して他学科との交流も深める。	2 前期	119	1			○	○	○	○	
57	○			ライフデザイン④	後期の卒業制作展覧会に向けて事前準備を実施する。ブランドショー企画を通しプレゼンテーション能力、グループディスカッション能力を高める。	2 後期	34	1			○	○		○	
58	○			卒業制作	グループワークを通じてアパレルブランドの企画を行い、ファッションショーと連動したブランド企画展示・ステージでのアパレルブランドショーを実習形式で学ぶ。	2 後期	136	3			○	○		○	
合計						58	科目		107 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 課程修了には、総計83単位以上を習得しなければならない。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科目を履修した場合に審査を行い、合格した者に対して単位を認定する。		1 学期の授業期間	17 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。